

1. アセスメントプランの目的

3 つの方針に基づいて教育活動が適切に機能し、学生が確実にディプロマ・ポリシーを達成できているかどうかの視点から、学生が身に付ける能力（学修目標）を明確に定め、学生の学びを効果的に支援できるよう、授業科目レベル、学位プログラムレベル、全学レベルそれぞれで学修成果・教育成果を把握・可視化し総合的に点検・評価することで教育改善を行う方針を以下に定める。

2. アセスメントプランの対象

基盤教育、各学部、各研究科及び別科の教育活動を対象とする。

3. 授業科目レベルの点検評価

授業科目ごとに、授業を通じて何を身に付けることができるのかを到達目標として明記し、到達目標に応じた適切な成績評価方法を別表 1 に従い、選択することで、学生の身に付けた力を適正に把握する。

また、授業改善につなげるため、各授業科目を毎年度点検評価し、本学の「教育改善を可視化する主体的 Check & Action システム」（以下、C & A システム）を実施する。

C & A システムは、①一定の様式と年間スケジュールに基づいて（システム）、基盤教育、学部学科、研究科及び別科ごとの教員チームにより、②授業改善に関わる学生の授業評価等の各種データを適切に評価し（主体的 Check）、③教育改善策を立案して、次年度のシラバスに反映させる（主体的 Action）。

C & A システムの具体的な手順等は、各年度の運用マニュアルによる。

4. 学位プログラムレベルの点検評価

学位プログラムごとに定めたディプロマ・ポリシーに基づいて、学生が何を身に付けることができるのかを学修目標として明示し、別表 2 に示した学修目標の達成状況に関する様々な情報を体系的・複合的に収集、分析、解釈することで（点検項目の体系化）、学修成果を適正に把握して可視化を行い（把握・可視化）、カリキュラム改善に反映させる取り組みを行う（改善）。

学位プログラムレベルの点検評価時期の目安は、カリキュラム開始 1～4 年目に、個々のデータを収集・集計・保存し、データ集計で気づきがあれば、課題を抽出し、改善等の可能性を探る。5 年目に、個々のデータを組み合わせて総合的に分析し、課題を抽出し、ディプロマ・ポリシー・学修目標とカリキュラムポリシーの一貫性から、カリキュラムを評価し、改正の必要性を検討する。

5. 全学レベルの点検評価

授業科目レベル及び学位プログラムレベルで日常的な点検・評価が行われているかどうかの

確認は、学則第 73 条に基づく自己点検評価により実施する。

また、自己点検評価の結果により 3 つの方針の修正や教育課程の再編成等の必要が生じた場合には、学長のリーダーシップの下で教育改善を進める全学的な組織を整備して実施する。

(附則)

このアセスメントプランは、令和 7 年度に開始するカリキュラムに適用する。

別表1. 到達目標に応じた適切な成績評価方法

	知識・技能 (DP1)	思考力・判断力・表現力 (DP2)	主体性・多様性・協調性 (DP3)
授業態度			◎
小テスト	◎		
自主学習態度			○
レポート	◎	◎	○
プレゼンテーション	○	◎	○
学期末試験	◎	◎	

◎：適切な成績評価方法、○：適切だが、工夫が必要な成績評価方法

別表2. 各教学組織の学修目標の達成状況を把握するための情報

【基盤教育】

DP	学修目標	情報			
		成績評価（取得 単位数） 成績分布状況	外部アセス メントテスト （GPS- Academic）	eポートフォリ オ	外部語学検定試 験 （TOEIC）
【DP1】 多様化する地域社会 の複合的な諸課題を 理解し、それらを解 決するために必要な 基礎的な知識、基礎 的な言語運用能力、 基礎的な数理・デー タサイエンスの能力 を身に付けている。	【学修目標 1-1】 地域社会の諸課題や人々 の健康問題について理解 し、説明することができる。	○		○	
	【学修目標 1-2】 基礎的な言語運用能力を 身につけている。	○		○	○
	【学修目標 1-3】 基礎的な数理・データサ イエンスの能力を身に付 けている。	○		○	
【DP 2】 社会の様々な対立する 価値や相反する課 題を発見し、多様な 知識を集約して批判 的に検討すること で、根拠に基づく解 決策を論理的に分か りやすく伝えること ができる。	【学修目標 2-1】 社会の課題について解決 するための批判的思考力 を身に付けている。	○	○	○	
	【学修目標 2-2】 社会の様々な対立する価 値や相反する課題を発見 し、評価することができる。	○	○	○	
	【学修目標 2-3】 自己の主張について、根 拠に基づいて、論理的に 分かりやすく伝えること ができる。	○	○	○	
【DP 3】 異なる文化や考えを持 つ人々とともに、 多様な経験を積み重 ねることによって、 不確実な社会に対し ての柔軟な対応力を 有し、自ら考え主体 的に行動してより良 い社会や人生を実現 するために、生涯を 通じて学び続ける力 の基盤を形成してい る。	【学修目標 3-1】 自ら考え主体的に行動し て、責任を持って行動し ようとする意欲や態度を 身に付けている。	○	○	○	
	【学修目標 3-2】 不確実な社会に対しての 柔軟な対応力を発揮す ることができる。	○	○	○	
	【学修目標 3-3】 異なる文化や考えを持 つ人々とともに、多様な 経験を積み重ねること ができる。	○	○	○	

【国際文化学科】

DP	学修目標	情報							
		各授業科目 における 達成状況	外部アセス メントテス ト (GPS- Academic)	学生の成長 実感・ 満足度	語学検定の 達成状況	授業の理解 度	日本語およ び外国語に よるプレゼ ンテーション	授業への興 味や関心	卒業論文・ 制作・報告 の水準
【DP1】 文理融合の実践的 総合知をもとに、地域 課題解決に資する技 能や豊かな語学力を 活用したコミュニ ケーション能力、 データサイエンス等 の知識や基礎的技術 を身に付け、活用す ることができる。	【学修目標1-1】 国内外の文化や、多言語 によるコミュニケーション に関して、実践的な活 動を通じて、総合的に理 解し説明することができ る。	○		○					
	【学修目標1-2】 日本語や外国語による豊 かで高度な多言語運用能 力を身に付け、活用す ることができる。	○		○					
	【学修目標1-3】 地域社会の諸課題につい て解決策を提案するた めのAI・データサイエンス の技術を身に付け、活用 することができる。	○			○				
【DP2】 地域社会の複合的な 諸課題を俯瞰的に捉 え、批判的思考やデ ザイン思考を駆使し て検討し、その解決 策を多様なツールを 用いて、論理的にわ かりやすく表現す ることができる。	【学修目標2-1】 地域社会の諸課題を俯瞰 的に捉え、科学的根拠に 基づいた批判的・論理的 思考力を駆使して課題 を検討することができる。	○	○	○					
	【学修目標2-2】 地域社会の諸課題を俯瞰 的に捉え、データを活用 し、デザイン思考のプロ セスを踏まえて解決策を 導き出すことができる。	○	○			○			
	【学修目標2-3】 自他の知見について検討 し、多言語を用いて、多 様な他者に対して論理的 にわかりやすく表現す ることができる。	○	○				○		
【DP3】 地域社会の国際化や 多文化共生、人々の 暮らしの質向上に向 けたデジタル化の推 進に向けて、自ら考 え主体的に行動しよ うとする姿勢を身に つけ、文化や価値観 の異なる多様な他者 との対話を通して、 イノベーションを創 発するために協働 し、学び続けること ができる。	【学修目標3-1】 地域社会のデジタル化推 進や新たな地域づくり に向けて、国際文化の視 点から自ら考え、主体的 に行動することができる。	○	○					○	
	【学修目標3-2】 地域社会のなかで、文化 や価値観の異なる多様 な他者を受容し、対話 を通して合意形成を図 ろうとすることができる。	○	○						○
	【学修目標3-3】 豊かな地域社会の未来 を創造し、人々の暮らし の質向上のために、文 化や価値観の異なる多 様な他者と協働し、学 び続けることができる。	○	○						○

【文化創造学科】

DP	学修目標	情報							
		各授業科目における達成状況	外部アセスメントテスト (GPS-Academic)	外部アセスメントテスト (プレゼンテーション作成検定)	学生の成長実感・満足度	地域文化の創造と発信に求められる基本的なスキルの修得状況	自主学習を含めた正課内外の活動	授業への興味や関心	卒業演習の成果 (卒業論文・卒業制作) の水準
【DP1】 文理融合の発展的総合知をもとに、地域課題解決に資する技術や豊かな語学力を活用したコミュニケーション能力、データサイエンス等の知識や基礎的技術を身に付け、活用することができる。	【学修目標 1-1】 日本文化や地域文化、デザインに関して、実践的な活動を通じて、総合的に理解し説明することができる。	○			○				
	【学修目標 1-2】 日本語や基礎的な英語、非言語による豊かなコミュニケーション能力を身に付けている。	○			○				
	【学修目標 1-3】 地域社会の課題について解決策を提案するためのAI・データサイエンスの技術を身に付けている。	○				○			
【DP2】 地域社会の複合的な課題を徹底的に探究し、批判的思考やデザイン思考を駆使して課題を発見し検討し、その解決策を多様なツールを用いて、論理的にわかりやすく表現することができる。	【学修目標 2-1】 地域社会の課題について探究し、科学的表現に基づいた批判的思考やデザイン思考を駆使して課題を発見し検討することができる。	○	○		○				
	【学修目標 2-2】 地域社会の課題について探究し、データを活用し、デザイン思考のプロセスを踏まえて解決策を導き出すことができる。	○	○		○				
	【学修目標 2-3】 自他の知見について検討し、言葉又は表現メディアを用いて、論理的にわかりやすく表現することができる。	○		○			○		
【DP3】 地域社会の国際化や多文化共生、人々の暮らしの質向上に向けて、文化創造の視点からデジタル化の推進に向けて、自ら考え主体的に行動しようとする姿勢を身に付け、文化や価値観の異なる多様な他者との対話を通じて、イノベーションを創出するために協働し、学び続けることができる。	【学修目標 3-1】 地域社会のデジタル化推進や新たな地域づくりに向けて、文化創造の視点から自ら考え主体的に行動しようとする姿勢を身に付け、文化や価値観の異なる多様な他者との対話を通じて、イノベーションを創出するために協働し、学び続けることができる。	○	○					○	
	【学修目標 3-2】 地域社会のなかで、文化や価値観の異なる多様なイノベーションを創出するために協働し、学び続けることができる。	○	○						○
	【学修目標 3-3】 豊かな地域社会の未来を創造し、人々の暮らしの質向上を行うために、文化や価値観の異なる多様な他者とともに協働し、学び続けることができる。	○	○						○

【情報社会学科】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における 達成状況	外部アセス メントテスト (GPS-Academic)	学習者自身による学修成果の自 己把握
【DP1】 文理融合の実践的総合知をもとに、 地域課題解決に資する技能や豊かな 語学力を活用したコミュニケーション 能力、データサイエンス等の知識 や基礎的技術を身に付け、活用する ことができる。	【学修目標 1-1】 国内外の文化間の課題や新たな地域 づくりに向けたデジタル情報の活用 に関して、総合的に理解し、説明す ることができる。 「①多様な文化間の課題を発見す る力」	○		○
	【学修目標 1-2】 日本語やプログラミング言語を用い て、意図内容を明確にするための知 識や技能を習得している。	○		○
	【学修目標 1-3】 地域社会の諸課題についてデータ駆 動型の解決策を提案するための AI・データサイエンスの技能を身 に付けている。	○		○
【DP 2】 地域社会の複合的な諸課題を俯瞰的 に捉え、批判的思考やデザイン思考 を駆使して検討し、その解決策を多 様なツールを用いて、論理的にわか りやすく表現することができる。	【学修目標 2-1】 地域社会の諸課題を俯瞰的に捉え、 批判的思考力を科学的根拠にも依拠 しつつ発掘し、情報技術を用いた課 題解決に向けて思考する力を身につ けている。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 地域社会の諸課題を俯瞰的に捉え、 データやデジタルを活用し、デザイ ン思考のプロセスを踏まえて解決策 を導き出すことができる。	○	○	○
	【学修目標 2-3】 イノベーションに向けた思考やビジ ネスマインドをもち、多様なツール を用いて関係する多様な他者が理解 できるよう表現することができる。	○	○	○
【DP 3】 地域社会の国際化や多文化共生、 人々の暮らしの質向上に向けたデジ タル化の推進に向けて、自ら考え主 体的に行動しようとする姿勢を身に つけ、文化や価値観の異なる多様な 他者との対話を通して、イノベー ションを創発するために協働し、学 び続けることができる。	【学修目標 3-1】 地域社会のデジタル化推進による新 たな地域コミュニティづくりや人々 の生活の質向上に向けて、情報文化 の視点から自ら考え主体的に行動す ることができる。 「⑤-a 情報技術を用いた課題解決 力・イノベーション力・ビジネスマ インド」	○	○	○
	【学修目標 3-2】 地域社会のなかで、文化や価値観の 異なる多様な他者を受容し、文系理 系の壁を越えた対話を通して多様な 意見を仲介し、地域の暮らしのDX 推進に向け協働することができる。 「⑤-b 情報技術を用いた課題解決 力・イノベーション力・ビジネスマ インド」	○	○	○
	【学修目標 3-2】 人々の暮らしの質向上や新たな地域 社会づくりに向けて、文化や価値観 の異なる多様な他者とともに、地域 社会の豊かな未来の創造のために考 えたことを発信し、学び続けること ができる。 「⑥-b 地域社会や暮らしへの情報 技術活用力・発信力」	○	○	○

【社会福祉学科】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における 達成状況	外部アセス メントテスト (GPS- Academic)	大地共創コンピテン シー
【DP1】 地域共生社会におけ る多様な福祉ニーズ に対応するために、 広い視野と専門的な 知識を有し、人々の 生活課題の解決に向 けて人や環境に働き かける技能を身に付 けている。	【学修目標 1-1】 個人・家族・社会の観 点から社会における多 様な福祉ニーズを理 解する知識を身に付 けている。	○		○
	【学修目標 1-2】 人々の生活課題の解 決に向けて人や環境 に働きかける技能を 身に付けている。	○		○
【DP2】 共感性と想像性を備 えた柔軟な思考力 と、人々の生活課題 の発見と解決に向 けた判断力を有し、 自己の考えを他者に 論理的に分かりやす く伝える表現力を身 に付けている。	【学修目標 2-1】 人々の生活課題につ いて共感性と想像性 をもって柔軟に思考 する力を身に付け ている。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 人々の生活課題を発 見し、解決に向けて 判断する力を身に付 けている。	○	○	○
	【学修目標 2-3】 人々の生活課題解決 について自己の考え を他者に論理的に分 かりやすく伝える表 現力を身に付けて いる。	○	○	○
【DP3】 社会正義を拠り所と して、共に生きると ができる社会を実 現するために、多 様な価値観を持つ人 々と連帯・協働し、 主体的に考えて行 動できる実践力と高 い倫理観とを身に付 けている。	【学修目標 3-1】 多様な価値観を持つ 人々を認め、共生し て社会をつくる態 度を身に付けてい る。	○	○	○
	【学修目標 3-2】 共生社会の実現のた めに多様な価値観を 持つ関連する多職 種と協働する力を 身に付けている。	○	○	○
	【学修目標 3-3】 共生社会の実現のた めに自ら考え主体的 に行動する実践力を 身に付けている。	○	○	○

【看護学科】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における 達成状況	外部アセス メントテスト (GPS- Academic)	DP・カリキュラム に関する在校生調査
【DP1】 生命の尊厳と人間性 の尊重に基づき、 人々の健康の維持増 進と生活の質の向上 に向けた看護を実践 できる専門知識・技 術を身に付けてい る。	【学修目標 1-1】 看護に必要な生命の尊厳 と人間性の尊重について 理解し、説明できる。	○		○
	【学修目標 1-2】 人々の健康の維持増進と 生活の質の向上に向けた 看護の実践に必要な専門 知識について述べるこ とができる。	○		○
	【学修目標 1-3】 人々の健康の維持増進と 生活の質の向上に向けた 看護を積極的に実施で きる。	○		○
【DP2】 根拠に基づく看護実 践と看護学の発展に 向けた課題解決のた めの思考力を身に付 け、自分の考えを適 切に表現できる。	【学修目標 2-1】 看護現象（看護実践に関 連する健康の側面）につ いて、根拠に基づいて筋 道を立てて考えることが できる。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 看護における課題を見出 し、幅広い視野で探求で きる。	○	○	○
	【学修目標 2-3】 看護に対する自分の考え を適切に表現できる。	○	○	○
【DP3】 多職種や地域の人々 と協働する姿勢のも とに、看護実践能力 の向上に向けて、生 涯にわたって主体的 に学び続ける態度を 身に付けている。	【学修目標 3-1】 多職種と連携、協働する 態度を身に付けている。	○	○	○
	【学修目標 3-2】 地域の多様な人々と協働 し、健康問題に取り組む 態度を身に付けている。	○	○	○
	【学修目標 3-3】 看護実践能力の向上に向 けて、主体的に学ぶ態度 を身に付けている。	○	○	○

【栄養学科】

DP	学修目標	情報					
		各授業科目 における 達成状況	外部アセス メントテス ト (GPS- Academic)	国家試験対 策模擬試験 (最終)に おける到達 目標の達成 状況	専門研究 の水準	臨地実習 学習記録	実践実習の 実施記録
【DP1】 科学的な根拠に基づ いて栄養学を正しく 理解し、栄養管理を 実践するための基本 的な知識や技能を身 に付けている。	【学修目標 1-1】 公衆衛生、身体の仕組み や機能、食べ物や調理な ど、栄養管理を実践する ための基本的な知識を身 に付け、説明することが できる。	○		○			
	【学修目標 1-2】 公衆衛生、身体の仕組み や機能、食べ物や調理な ど、栄養管理を実践する ための基本的な技能を身 に付け、活用することが できる。	○		○			
【DP2】 栄養学の知識や技能 を統合・活用して、 課題を発見し、解決 に向けた思考判断と 実践ができるととも に、人々の健康増進 や生活の質を向上さ せるための方法を分 かりやすく説明する ことができる。	【学修目標 2-1】 健康や栄養状態に関連す る知識や技能を統合し、 課題を発見する力を身に 付けている。	○	○	○	○		
	【学修目標 2-2】 健康や栄養状態に関連す る課題解決に向けて、適 切な戦略を立て、実践す ることができる。	○	○	○	○		
	【学修目標 2-3】 対象者の行動変容を促せ るよう、健康増進や生活 の質を向上させる方法を 分かりやすく説明するこ とができる。	○	○		○		
【DP3】 管理栄養士として関 連する多職種及び地 域社会の人々と協働 し、対人援助を通じ てチームの一員とし て活躍するために自 律的に学ぶことがで きる。	【学修目標 3-1】 多様化する社会に対応で きるよう、専門性を高め るために主体的に学ぶこ とができる。	○	○		○	○	○
	【学修目標 3-2】 管理栄養士としての倫理 観や職業観を持ち、課題 解決に向けて主体的に行 動することができる。	○	○			○	○
	【学修目標 3-3】 実践的な実習や専門研究 を通して、多職種や地域 社会の人々と協働する態 度を身に付けている。	○	○			○	○

【国際文化学研究科（修士課程）】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における 達成状況	修士論文・修士制作 の水準	DP達成度に関する 学生の自己評価
【DP1】 国際文化に関する基 盤となる知識を有 し、地域社会の国際 化や地域文化の多様 な価値に関する学術 的知識を自ら関わる 現場に応用すること ができる。	【学修目標 1-1】 グローバルな感覚と共 に、高度な異文化交流に 関する知識と、地域の歴 史・文化を深く理解する ための知識を有する。	○	○	○
	【学修目標 1-2】 学術的知識を地域社会の 国際化や地域文化の新た な発掘・創造に応用する ことができる。	○	○	○
【DP 2】 国際文化に関する地 域の諸課題を見出 し、解決する方法を 論理的に導くことが できる。また、専攻 分野の研究能力又は 高度な職業的専門性 をもって自らの思考 や判断を的確に表現 し、伝えることができ る。	【学修目標 2-1】 国際文化に関する地域の 諸課題を見出し、解決す る方法を論理的に導くこ とができる。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 専攻分野の研究能力又は 高度な職業的専門性 をもって自らの思考や判断 を的確に表現し、伝える ことができる。	○	○	○
【DP 3】 人権を尊重する倫理 観に基づき、学術的 視点をもって、国際 文化に関する諸課題 の解決に貢献でき る。また、個性豊か な地域文化の進展と 人々が生き生きと暮 らす社会の形成・創 造にむけて地域社会 の多様な人々と連携 することができる。	【学修目標 3-1】 人権を尊重する倫理観に 基づき、学術的視点を もって、国際文化に関す る諸課題の解決策を提案 できる。	○	○	○
	【学修目標 3-2】 個性豊かな地域文化の進 展と人々が生き生きと暮 らす社会を形成するた め、地域社会の多様な 人々と連携し、課題解決 に向けた行動がとれる。	○	○	○

【健康福祉学研究科（博士前期課程）】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における 達成状況	修士論文の水準	DP達成度に関する 学生の自己評価
【DP1】 健康・福祉に関する 基盤となる知識を有し、 人の生命と生活及び人 を取り巻く環境について 説明できる。	【学修目標 1-1】 健康・福祉に関する基盤 となる知識を有する。	○	○	○
	【学修目標 1-2】 人の生命と生活及び人 を取り巻く環境について 説明できる。	○	○	○
【DP2】 健康・福祉に関する 地域の諸課題を新た に見出し、解決する 方法を論理的に導く ことができる。また、 自らの思考や判断を 的確に表現し、伝え ることができる。	【学修目標 2-1】 健康・福祉に関する地域 の諸課題を新たに見 出し、解決する方法を 論理的に導くことが できる。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 自らの思考や判断を 的確に表現し、伝え ることができる。	○	○	○
【DP3】 人権を尊重する倫理 観に基づき、研究的 視点を持って、健康・ 福祉に関する諸課 題の解決に貢献で きる。また、課題解 決のために、地域社 会の多様な人々と連 携することができる。	【学修目標 3-1】 人権を尊重する倫理観 に基づき、研究的視点 を持って、健康・福祉 に関する諸課題の解 決策を提案できる。	○	○	○
	【学修目標 3-2】 健康・福祉に関する諸 課題解決のために、 地域社会の多様な人 々と連携することが できる。	○	○	○

【健康福祉学研究科（博士後期課程）】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における 達成状況	博士論文の水準	DP達成度に関する 学生の自己評価
【DP1】 健康・福祉に関する 高度な専門知識を有 し、人の生命と生活 及び人を取り巻く環 境について、系統的 かつ俯瞰的に説明で きる。	【学修目標 1-1】 健康・福祉に関する高度 な専門知識を有する。	○	○	○
	【学修目標 1-2】 人の生命と生活及び人 を取り巻く環境について、 系統的かつ俯瞰的に説明 できる。	○	○	○
【DP2】 健康・福祉に関する 地域の諸課題を新た に見出し、高度な論 理的思考力に基づき 解決のための研究方 法を導くことができ る。また、自らの思 考、判断や創造を的 確に表現し、根拠を 持って発信すること ができる。	【学修目標 2-1】 健康・福祉に関する地域 の諸課題を新たに見出 し、高度な論理的思考力 に基づき解決のための研 究方法を導くことができ る。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 自らの思考、判断や創造 を的確に表現し、根拠を 持って発信すること ができる。	○	○	○
【DP3】 高度な創造力を持っ て、健康・福祉に関 する諸課題の解決に 貢献できる。また、 高度な研究力に基づ く転用力を備えて、 多様な学問領域ある いは大学教育に貢献 できる。	【学修目標 3-1】 創造力を持って、健康・ 福祉に関する諸課題の解 決策を提案することがで きる。	○	○	○
	【学修目標 3-2】 高度な研究力に基づく転 用力を備えて、多様な学 問領域あるいは大学教育 に貢献できる豊かな学識 を有する。	○	○	○

【別科助産専攻】

DP	学修目標	情報			
		各授業科目における達成状況	国家試験の合格状況	県内への就業率	学生の満足度
【DP1】 マタニティサイクルにある母児及び女性の生涯にわたる健康支援に必要な基礎的知識を有し基本的技術を実施することができる。	【学修目標 1-1】 マタニティサイクルにある母児の健康状態を診断するために必要な知識を述べることができる。	○	○		
	【学修目標 1-2】 安全、安楽、母子及び家族が満足できる分娩介助に必要な知識・技術を修得し、実施することができる。	○	○		
	【学修目標 1-3】 女性の生涯にわたる健康支援の知識を有し相談・教育活動が実施できる。	○	○		
【DP 2】 マタニティサイクルにある母児及び女性の生涯にわたる健康上の課題を発見し、その解決策を論理的に思考し表現することができる。	【学修目標 2-1】 マタニティサイクルにある母児の健康状態を診断し説明することができる。	○	○		
	【学修目標 2-2】 女性の生涯にわたる健康上の課題を発見し、解決する方法を論理的に説明することができる。	○	○		
【DP 3】 変化する社会のニーズを踏まえて多職種や地域の人々と協働する役割を担うために、基盤となるリーダーシップ・フォロワーシップを身につけている。	【学修目標 3-1】 様々な課題に対応するために関連する多職種との連携について具体的に述べることができる。	○	○		
	【学修目標 3-2】 地域組織、当事者グループと助産師との連携について具体的に述べることができる。	○	○		
	【学修目標 3-3】 助産師および他職種の業務内容・役割を認識し協働の意義を考えることができる。	○	○		
【DP 4】 地域（山口県）の周産期医療・母子保健活動を推進に向けて主体的に取り組むことができる。	【学修目標 4-1】 地域（山口県）の周産期医療について説明できる。	○	○		
	【学修目標 4-2】 地域（山口県）の母子保健に関心を持ち、地域の課題解決に向けた取り組みを表現できる。	○		○	○